

特集

職場あるある、
女性同士の「もやもや」

コラム

株式会社natural rights
代表取締役

小酒部 さやかさん



り
ぶ
る

さ
っ
ぽ
ろ

春

44

既婚未婚に関する「もやもや」

未婚者の「もやもや」

- 女性活躍の施策は産休育休の話ばかりで、結婚して子どもがいる人が偉いという雰囲気がある。
(30代前半／未婚子どもなし／正社員)
- 「結婚してないからわからないと思うけれど」という言葉を頻繁に使う人がいる。(40代前半／未婚子どもなし／正社員)
- この年齢だと「既婚」で当然、という空気がある。
(40代後半／未婚子どもなし／正社員)
- 独身で仕事を頑張っているお金があると思われているが決してそんなことはない。
(40代前半／未婚子どもなし／正社員)

既婚者の「もやもや」

- 結婚した途端、未婚の先輩にきつく当たられるようになった。
(30代前半／既婚子どもなし／正社員)
- 未婚の同僚が多いため、家庭の事情をあまり相談できず、残業できないことをよく思われない。
(30代前半／既婚子どもなし／契約社員 派遣社員)



雇用形態の違いによる「もやもや」

- 仕事と家庭の両立に必死なのに、正社員より早く帰れるため、パートアルバイト優先で「もやもや」



ある、女性同士の「もやもや」

の多くが一度は感じる、職場における女性同士の「もやもや」。
女性はどんな「もやもや」を抱えているのかお聞きしました。

子どもの有無に関する「もやもや」

子どもがいない人の「もやもや」

- 子どものお迎えで早く帰る同僚から、「あなたは残業できてずい」と言われた。終わらなかつた仕事を引き継いで、本当はしたくない残業をして終わらせているのに…。
(30代前半／未婚子どもなし／正社員)
- 同僚が妊娠を報告するときに気を遣われる。
(40代後半／既婚子どもなし／フリーランス)
- ベテランで独身の先輩が、産休に入る同僚について迷惑だと話していて、将来自分が出産するときもそう思われるのだと感じた。(20代後半／未婚子どもなし／正社員)
- 仕事と子育てを両立している同僚を見ると、自分は次世代を育てる負担を負っていないという後ろめたさがある。
(40代後半／未婚子どもなし／正社員)

子どもがいる人の「もやもや」

- 子どもの都合で仕事を調整しなくてはならず、同僚に負担をかけてしまつのが申し訳ない。
(40代前半／未婚子どもあり／正社員)
- 仕事で嫌なことがあつても、その日に飲みに行つて愚痴れる気楽さが無い。仕事モードから子育てモードへの転換が非常に難しい。
(30代後半／既婚子どもあり／パートアルバイト)
- 子どもがいる人のフォローを会社ができていないため、子どもがいない人に負担がかかり、結局子どもがいる人が責められる。申し訳ないと頭を下げ、嫌な思いをしながらかんしゃくしかない。
(30代前半／既婚子どもあり／正社員)
- 仕事量が多いのに、子どもがいる私が残業すると、「後から出産した人がやりづらいので困る」と言われる。(30代後半／既婚子どもあり／正社員)



ましいと思われている。

(40代前半/既婚子どもあり/パート・アルバイト)

やむを得ず子連れ出勤した際も温かく受け入れてくれたが、正社員の同僚には、子育てしながら不安定な雇用形態で働いている厳しさは理解してもらえないと思うことがある。

(30代後半/既婚子どもあり/パート・アルバイト)



職場あ

働く女性
札幌の

子どもがいる人同士の「もやもや」

●子どもがいる女性が多い職場で、風邪を引きやすい子どもを持つ同僚に対して、「健康管理がなってないのでは?」「私はできたのにどうしてあなたはできないの?」と責める同僚がいて困惑した。

(40代前半/既婚子どもあり/パート・アルバイト)

世代の違いによる「もやもや」

●「昔は遅くまで残業していたから、あなたも世の中を知るために残業して」と言われた。

(20代後半/未婚子どもなし/契約社員・派遣社員)



その他の「もやもや」

●考え方や生活スタイルが違う未婚の同僚や子どもがいない同僚には、何気ない会話でも変に気を使って本音を言えない。

(40代前半/既婚子どもあり/パート・アルバイト)

本音



Q どうすれば「もやもや」がなくなる?

●自分のしてきた不意な苦労は後輩にさせない思いやりをもつ。

(20代後半/未婚子どもなし/契約社員・派遣社員)

●「女性男性はこうあるべき」という意識をなくす。

(40代後半/未婚子どもなし/正社員)

●自分が感じている「もやもや」の原因が、他人にあると考えないようにする。(40代前半/既婚子どもあり/契約社員・派遣社員)

●何が差別(人権侵害)にあたるのかを明確にし、まず管理職の意識を変える。(40代前半/未婚子どもなし/正社員)

●仕事の見える化。(30代後半/未婚子どもなし/正社員)



●互いの状況や考えを理解・尊重する姿勢を見せる。同じ職場の年上・既婚子なしの女性は「私とは全然違う人生を歩んでいるけれど、応援しているよ」と言ってくれ、随分と励まされている。

(30代前半/既婚子どもあり/正社員)

●誰かのために誰かが損をするのが良くない。子育て中の女性へ配慮をすることで、負担がかかる社員には手当を出す。

(20代後半/未婚子どもなし/正社員)

●子どもがいるから残業できないなど決めつけて業務分担せず、話し合いをして、全員が納得した上で決めることが大切だと思う。

(30代前半/未婚子どもなし/正社員)



『Aさんの場合。』 やまもとりえ 著 1,200円(税別)／祥伝社

とある会社に勤める女性たちの日常を綴った、切なく痛快な共感型4コマ漫画。今回りぶるで登場した未婚のAさんと、既婚で子供がいるBさん以外にも、さまざまな登場人物の視点で女性の「もやもや」を描いています。仕事ばかりの方も、子育て中の方も、読めばちょっとだけ心が自由になる1冊。

やまもとりえさん

イラストレーター。鹿児島県出身。2歳の息子(天バ)、4歳年下の旦那さん(なで肩)、猫のトンちゃん(ガリガリ)と、大阪でまったり暮らす。育児のことを綴ったブログ『やまもとりえ育児日記』が、1日20万アクセスを越える人気ぶり。祥伝社WEBマガジン「コフレ」での連載を1冊にまとめた話題のコミック『Aさんの場合。』が、初めての著書となる。

やまもとりえ育児日記→ <http://ameblo.jp/rinpotage/> WEBマガジン「コフレ」→ <http://www.coffret-web.jp/>

Bさんの場合



(C)やまもとりえ／祥伝社

職場あるある、女性同士の「もやもや」はどこから来ているの？

日本の女性は生きづらい！年頃になると結婚は？と言われ、結婚すると子どもは？と言われ、妊娠すれば職場でマタハラされ、出産すれば保活^{※1}に奔走し、運よく育休から復帰できてもマミートラック（昇進昇格とは縁遠いキャリアアコースのこ）に乗せられる可能性がありません。まさに永遠と続くハードル競争のよう。そして女性自身も目の前にそのハードルが来ると、飛ばないとならないのではないかと、不思議と自分で自分を縛り付けていたりします。

マタハラ4類型^{※2}の一つに「昭和の価値観押し付け型」というのがあります。「子どものことを第一に考えないとダメだろう」「君の体を心配して言っているんだ」「旦那さんの収入があるからいいじゃない」「だから辞めなさい」と退職を迫るものです。女性は子どもを産んで家庭に入るべき。それが幸せのかたちと思いついでいる価値観から発せられる言動です。性別役割分業の意識と呼ばれ、男性が外で働いて女性が家事育児を担ってという役割分担は、高度経済成長期にできました。この時期に経済成長という成功体験をしたことで、いまだにこの役割分業が幸せのかたちとして、多くの人たちに根付いてしまっているのです。

この意識は、男性に限らず女性の中にもあります。あなたのお母さん、義理のお母さん、職場の女性上司や女性の同僚、またあなた自身の中

にもあるかもしれません。そして、マタハラを招くだけでなく、「子なしハラスメント」にもつながります。「子どもはいいよ、絶対に産むべき」「子どもがいない人は気楽でいいよね」「子どもが欲しくないのに何で結婚するの？」など。「子どもがいないから時間に余裕があるでしょ、この仕事お願いね」と、産休育休利用者の業務のしわ寄せが過剰に周囲の社員にいくと、「逆マタハラ」となります。この1月から事業主にマタハラ防止措置が義務化されました。この防止措置の中に、周囲の社員にしわ寄せが行くこともマタハラの原因として、周りの人たちの負担にも配慮すべきという項目があります。それぞれの立場で不公平感がないように、制度の利用をフォローする側にも目を向けることがマタハラ解決のポイントです。

結婚するしない、子どもがいる・いない、仕事を続ける・続けない、本来はいろんなかたちがあつていいはずですが、幸せのかたちを一つに決めてしまう古い価値観を、まずは女性同士の中で打ち破っていきましょ。その一歩が、相手の立場にも目を向けることです。そのことで、自分自身も縛られずに楽になつていくかもしれません。



株式会社natural rights 代表取締役

小酒部 さやかさん Sayaka Osakabe

2014年7月自身の経験からマタハラ問題に取り組むため、NPO法人マタハラNetを設立。2015年3月女性の地位向上への貢献をたたえるアメリカ国務省「国際勇気ある女性賞」を日本人で初受賞。2016年1月筑摩書房より「マタハラ問題」、11月花伝社より「ずっと働ける会社～マタハラなんて起きない先進企業はここがちがう!～」を出版。

<http://www.naturalrights.co.jp/>



(C)斎藤大地

※1 保育園入園活動の略称。子どもを保育園等に入れるために保護者が行う活動。
 ※2 NPO法人マタハラNetに寄せられた被害相談をもとに、マタハラを「昭和の価値観押し付け型」「いじめ型」「ハワハラ型」「追い出し型」の4つにまとめたもの。

METHOD



女子の人間関係

水島広子 著

1,300円(税別)/サンクチュアリ出版

敵・味方を分けたがる、群れたがる、形ばかりのつながりを求めるなど、何かと面倒を感じる女性同士の人間関係。対人関係療法の専門医がその悩みの原因を解析し、どう付き合っていけばいいのか、3つのステップで分かりやすく解説しています。



SOCIOLOGY



マタハラ問題

小酒部さやか 著

800円(税別)/筑摩書房(ちくま新書)

働く女性が妊娠・出産・育児を理由に退職を迫られたり、嫌がらせを受けたりするマタニティハラスメント=「マタハラ」。いまや働く女性の3人に1人が経験していると言われる、その実態はどのようなものなのか、当事者の声から問題を考えます。



BUSINESS



お仕事のコツ事典

文響社編集部 編

1,280円(税別)/文響社

「あー仕事、行きたくない…」そんな働く女性を応援する一冊。小さなストレスを元気に変える、ちょっとしたアイデアが掲載されており、朝起きてから夜寝るまでの、いろんなシーンの「ため息」が楽しく変わります。一日の中で一番長い「仕事時間」を楽しく過ごすためのコツが満載です。

MOVIE

すーちゃん まいちゃん
さわ子さん

御法川修 監督

DVD 4,500円(税別)/ポニーキャニオン

カフェ勤務歴十数年のすーちゃん(柴咲コウ)、OA器機メーカー勤務のまいちゃん(真木よう子)、WEBデザイナーのさわ子さん(寺島しのぶ)は、かつてのバイト仲間。仕事、年齢、貯金、結婚、妊娠、介護…。悩みや境遇の異なる3人のそれぞれの物語と、確かな友情を穏やかなタッチで描いた作品。

り
ふる
の
ス
ス
メ

このページではセンター職員がおススメする本・映像作品をご紹介します。
あなたのお気に入りになったら嬉しいです。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか？

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では男女共同参画を含めた4分野の資料を閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。

マークが付いているものは情報センターで借りることができますので、ぜひ遊びに来て下さいね。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)
(貸出時間 9:00~19:45)

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。

相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。

1人で悩まずに、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてお話ししてみませんか。

	女性のための 総合相談	女性のための仕事の悩み相談	女性のための 法律相談
日時	月○○木○土 10:00~12:00 ○火○○○○○ 15:00~17:00 ※ただし第2火のみ 18:00~20:00	○○水○○○○ 18:00~20:00	○○○○金○ ※ただし第1・3・4 第3金 13:00~15:00 第1・4金 18:00~20:00
相談員	カウンセラーなど（女性）	産業カウンセラー（女性）	弁護士（女性）
相談方法	面談／電話（728-1225）	面談／電話（728-1227）	面談
相談内容	家族のこと、夫婦のこと、恋愛、対人関係など女性の総合的な相談に相談員が面談または電話で対応します。	職場における対人関係、働き方、セクシュアル・ハラスメントなど、女性の仕事についての相談に産業カウンセラーが面談または電話で対応します。	離婚や相続など、法的な見解が必要な女性の相談に弁護士が対応します。完全予約制なので事前にお電話でご予約ください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 予約受付電話：728-1255 </div>

編集後記

「どのようになれば職場における女性同士の『もやもや』がなくなると思えますか？」という質問に、多くの方が「お互い理解しあう」というコメントをくださり、とても心強く思いました。未婚・既婚、子どもの有無など、一見同じ立場に見える人も、価値観や事情はさまざまです。職場で「もやもや」を感じた際は、自分の中に「女性（男性）はこうあるべき」という固定観念がないか、ぜひ一度考えてみてほしいと思います。

「ガールズ相談」事業の報告書が完成しました！

平成28年8月25日（木）～9月7日（水）の期間に、中学生・高校生・大学生など若い世代の女性を対象に行った「ガールズ相談」事業の報告書が完成しました。

電話、面談のほか、LINEを活用し、2週間で871件の相談が寄せられたガールズ相談。その実施概要や結果、若い世代の女性を取り巻く環境や抱える問題について掲載しています。若い世代に寄り添った支援を行うために必要な取り組みについて、ぜひこの報告書を参考にしてください。

配布場所

札幌市男女共同参画センター
 冊子ご希望の方は窓口にてお申し出ください。
 ホームページからもご覧になれます。

発行月：平成29年3月

発行：札幌市男女共同参画センター

【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】

facebook：http://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904

所在地：〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話：(011)728-1255 FAX：(011)728-1229

ホームページ：http://www.danjyo.sl-plaza.jp



本誌のタイトル「りぶる」は、英語(ripple)で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。